【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和2年7月16日(2020.7.16)

【公開番号】特開2019-13327(P2019-13327A)
【公開日】平成31年1月31日(2019.1.31)
【年通号数】公開・登録公報2019-004
【出願番号】特願2017-131178(P2017-131178)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　2/16　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ　2/16

【手続補正書】
【提出日】令和2年6月1日(2020.6.1)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
円盤形状の光学部と、前記光学部から外側に向けて湾曲して延びる一対の支持部とを備えた折り曲げ可能な眼内レンズを、内部の通路を通じて先端部の挿入口から眼内に挿入する眼内レンズ挿入器具であって、
前記一対の支持部のうちの一方が前記光学部よりも先端側に位置し、且つ他方が前記光学部よりも後端側に位置する状態で、前記眼内レンズが載置される載置部と、
前記載置部よりも先端側に設けられ、先端側に向かう程通路面積が狭くなると共に、先端部に前記挿入口を有するノズルと、
前記通路の軸を挟んで前記載置部に対向する位置に形成され、前記眼内レンズが前記載置部に載置される際に前記眼内レンズが通過する開口部と、
前記軸と平行な方向に移動可能に設けられ、先端側に向けて移動されることで前記開口部の少なくとも一部を覆う蓋部と、
を備え、
前記蓋部は、
前記通路内に向けて突出すると共に、前記蓋部の先端側への移動に伴って前記眼内レンズの後端側の前記支持部に接触する押出突部を備えたことを特徴とする眼内レンズ挿入器具。
【請求項２】
請求項１に記載の眼内レンズ挿入器具であって、
前記通路の軸方向に交差する左右方向の前記開口部の幅が、前記眼内レンズの前記光学部の光軸と、一対の前記支持部の基端部同士を結ぶ直線に共に直交する左右方向における前記眼内レンズの全体の幅未満であり、且つ、前記眼内レンズの前記光学部の径以上であることを特徴とする眼内レンズ挿入器具。
【請求項３】
請求項１または２に記載の眼内レンズ挿入器具であって、
前記押出突部における先端面の下部からさらに先端側へ延びる爪部をさらに備えたことを特徴とする眼内レンズ挿入器具。
【請求項４】
請求項１から３のいずれかに記載の眼内レンズ挿入器具であって、

前記開口部よりも先端側の壁面から前記通路内に向けて突出すると共に、前記眼内レンズの先端側の前記支持部に接触して前記眼内レンズの回転を規制する規制突部をさらに備えたことを特徴とする眼内レンズ挿入器具。

【請求項５】

請求項１から４のいずれかに記載の眼内レンズ挿入器具であって、

前記通路の軸方向における前記開口部の長さが、一対の前記支持部の基端部同士を結ぶ方向における前記眼内レンズの全長よりも短いことを特徴とする眼内レンズ挿入器具。

【請求項６】

請求項１から５のいずれかに記載の眼内レンズ挿入器具であって、

前記載置部には、前記眼内レンズが載置される方向を示すマークが設けられていることを特徴とする眼内レンズ挿入器具。